



かながわの交通



交通安全年間スローガン 文部科学大臣賞
～ こども部門：こども（中学生以下）へ交通安全を呼びかけるもの ～

ぼくは ここ ピカッと知らせる はんしゃざい



ざる菊

(相模原市南区)



自転車はどこを走ったらいいの…？ 教えて！

自治会・企業・高齢者の集まりなどで

チリリン・スクール を一緒にやりませんか。



◎県内の交通事故発生概況(平成28年10月末現在) ◎県人口・運転免許人口

年別	区分	発生件数	死者数	傷者数		総数	男	女
平成28年		22,118	106	26,399	県人口	9,146,681	4,564,874	4,581,807
平成27年		23,325	140	27,844	免許人口	5,617,448	3,232,698	2,384,750
増減数		-1,207	-34	-1,445	割合	1.6人に1人	1.4人に1人	1.9人に1人
増減率		-5.2	-24.3	-5.2				

(県人口は平成28年10月1日、免許人口は平成28年9月末現在)

飲酒運転根絶強化月間

● 実施期間

平成28年12月1日(木)～12月31日(土)の1か月間

● 目 的

悲惨な交通事故を引き起こす飲酒運転を根絶するため、飲酒運転の危険性、悪質性を訴える運動を県民総ぐるみで展開します。

● スローガン

乗る人に 飲ませるあなたも 犯罪者

● 重 点

- ・ 飲酒運転根絶運動の周知徹底と広報啓発
- ・ 飲酒運転を助長する環境の根絶
- ・ ハンドルキーパー運動の推奨



飲酒運転で人身事故を起こすと

危険運転致死傷罪

で最高懲役**20年**の懲役に
問われることも!!

飲酒運転も飲酒運転周辺者も厳罰!!

////// 子どもの交通事故防止活動の強化 //////////////

～10月28日 横浜市港南区で集団登校中の児童が死傷～

痛ましい交通事故を受けて、県警察では「街角アドバイス」を行うなど、街頭活動を強化していますが、地区交通安全協会においても、登校・下校時間帯に活動するときは、

- 積極的な声かけ
- 横断旗、停止棒、笛を活用するなど明確に合図
- 車両運転者にも注意喚起
- 警察官と連携

するなど、子どもの保護誘導活動を強化しています。





第47回全国白バイ安全運転競技大会

連覇 団体個人総合優勝 《神奈川県警察》

10月8日、9日の2日間、茨城県自動車安全運転センター安全運転中央研修所で開催された第47回全国白バイ安全運転競技大会において、神奈川県警チームは昨年に続いて4回目の団体第1部優勝、個人でも第二交通機動隊の谷口俊光選手が総合優勝して、神奈川県警初となる**2連覇**の栄冠に輝きました。



大会初日は開会式の後、昨年の団体優勝の実績から神奈川県警チームは全国193台の白バイの先頭に立ち、堂々と分列行進に参加しました。午前中は小雨が混じる中バランス競技を行い、谷口選手が種目別で優勝、午後は雷を伴う土砂降り、悪天候のためトライアル競技は中止となりましたが、団体で第3位の好位置に付けました。

2日目も雨模様の悪コンディションの中でしたが、最初のもトクロス競技では谷口選手が種目別で第3位に入賞するなど選手全員が奮起して団体第2位に順位を上げ、トップを走る愛知県警チームとの差を5.4秒まで追い上げました。最後のスラローム競技では、選手全員が逆転優勝を誓い、野口尋成選手が種目別優勝、北村匠選手が第2位と奮闘し、昨年同様、団体優勝を勝ち取ることができました。

なお、個人総合では野口選手が第10位に入賞し、スラローム女性の部では、高山夕莉佳選手が個人第2位に入賞しています。

やったネ！



(神奈川県警チーム)



(個人総合優勝：谷口選手)

おめでとう



ストップ・ザ・交通死亡事故

～ 目標に向かって ～

今年度から5か年計画で始まった「第10次神奈川県交通安全計画」では、交通事故による「年間の24時間死者数を150人以下」とする目標を掲げ、各季の交通安全運動をはじめ、各地区の交通情勢に応じた対策を推進しています。

10月9日に県内の交通事故死者数が100人となりましたが、昨年よりも61日遅く、過去最も遅いものとなっています。10月末現在でも、106人(前年比-34人)と、昨年と比べて大幅に減少しており、目標達成に大きく近づいています。

神奈川県警察でも、年末にかけて子どもの見守り活動や飲酒事故防止を中心として、月末6日間対策や横浜エリアゼロ対策、年末の交通事故防止運動等に取り組む方針とのことですので、各地区協会にありましても地元警察署や関係団体と連携して、目標達成はもちろん、1件でも悲惨な事故をなくして新年を迎えたいものです。



受賞おめでとうございます

警察本部長・地域交通安全活動推進委員協議会連絡協議会会長連名表彰

交通の安全と円滑を図るために活動している中で、顕著な功労のあった原則として在任期間10年以上の個人と、多年にわたる地道な推進委員協議会活動により顕著な功労があった団体を対象として毎年表彰しています。



● 交通安全功労者(47人) (敬称略)

高畠一義(加賀町)高橋慎一(山手)林 昌邦、並木 寛(磯子)増山泰男、望月 昭、花輪公乙(南)阿部誠一郎、小泉武信(戸部)佐光隆之(鶴見)中野暁美、安積啓子、関水金作(旭)木村勝義、宮田正雄(港北)高橋一三(緑)三ツ橋耕三(青葉)森 克巳、鈴木一美、山田正利(栄)清水隆男(泉)河田 進(幸)吉田勝美(川崎)武藤義勝、臼井博一郎 渡部 正(川崎臨港)村瀬明久、森 隆雄(横須賀)松本幹夫、村山正美(三崎)中島章一(葉山)高橋和歌夫、森 隆雄、大森道明(鎌倉)木村美恵子、三髯フユ子(藤沢)松嶋正樹(藤沢北)内藤ふさ子(茅ヶ崎)小川芳明、杉崎一夫(大磯)石川尚久(小田原)中田定美(秦野)飯塚武彦、北川 昇(伊勢原)笹生準一(厚木)岩部清子(大和)橋本美恵子(相模原北)

● 交通安全功労団体(3地区協議会)

- ・ 磯子警察署管内地域交通安全活動推進委員協議会 代表：黒川順吉
- ・ 田浦警察署管内地域交通安全活動推進委員協議会 代表：吉野英男
- ・ 相模原南警察署管内地域交通安全活動推進委員協議会 代表：鈴木貴市

地域交通安全活動推進委員の委嘱と研修

地域交通安全活動推進委員(以下「推進委員」という。)は、道路交通法等を根拠に

交通安全教育、広報・啓発、協力要請、相談、協力援助、実地調査

等を広く行うことが期待され、警察署長の推薦を受けて県公安委員会が、地域における交通の状況について知識を有する者で、

- ① 人格及び行動について、社会的信望を有する
- ② 職務の遂行に必要な熱意及び時間的余裕を有する
- ③ 生活が安定している
- ④ 健康で活動力を有する

者のうちから委嘱することとされています。

推進委員の任期は2年であり、本年末をもって全員の任期が満了することから、来年1月1日付けをもって委嘱が行われたときは、定例の地区研修とは別に速やかに講習を行うこととされていますので、各地域交通安全活動推進協議会は、委嘱状交付式等に合わせて講習を行うよう事前準備、連絡・調整をお願いします。



(地区研修会：厚木)

●●●● 二輪車安全運転指導員養成講習会・資格審査 ●●●●

県二輪車安全運転推進委員会(只野司委員長)では、神奈川県警察、神奈川県二輪車普及安全協会等の協力を得て、10月15日(土)運転免許試験場において16名の方を対象に二輪車安全運転指導員養成講習会・資格審査を実施しました。

当日は、開講式に続いて、午前中は県警担当官による適性検査、学科講習、学科テスト、午後からは二輪車安全運転推進委員会特別指導員の指導で実技講習を行った後、実技テスト、最後に面接審査を行いました。

合否については、後日、判定委員会を開催し、11月中旬ごろまでに県二輪車安全運転推進委員会から合格者本人に連絡する予定です。



交通事故の悲劇に学ぶ ④2

●「悪夢」 公務員(29歳)

平成27年のある日、それはあまりに突然のことでした。それまでは何事もなく運転をしていた私の目の前に、突然驚いた顔をした小学生2人の姿が飛び込んできたのです。「あっ。」と思った瞬間には、ブレーキも間に合わず、そのまま2人の少年に突っ込み、1人を民家の塀と車で挟み死亡させ、もう1人に加療14日の怪我を負わせてしまったのです。

こうして事件の概要を書いていると、まるで被害者達が飛び出しでもしてきたかのようですが、原因は私が居眠り運転をしたことにあります。被害者の人は、普通に通学途中、ルールを守って横断歩道を渡り、その先で後ろからついてくる母親らが来るのを行儀よく、できるだけ車の邪魔にならないよう、道の端に寄って待っていただけ、つまり何一つ彼らには責められるようなこともなければ、こんな事件に巻き込まれなければならない理由もなかったのです。

その時に目にした光景は、今でも鮮明に思い出ことができます。シートベルトをし、エアバッグに守られた私は無傷でしたが、慌てて車を降りた目の前にいた、母親の腕に抱かれている少年は、一目見て助からないのがわかる程の状態でした。また、その子に必死で呼びかける母親の姿は地獄というものがあれば、それはきっとあのような場なのだろうと思うほどの惨状でした。「あなたがいなければ、お母さん生きていけないよ!」という悲痛な叫びは今でも耳から離れません。

当時、私は職場で人事異動があり、職場で慣れない仕事や年度初めの会議の数々をなんとかやりきっていましたが、異動前は20分で通勤していたところを1時間以上かけて通勤していました。さらに、生まれて間もない娘の世話や一人目の子育てでいろいろ大変な思いをしていた妻のフォローなどこれで疲れるなどというのは無理だろうという生活を送っていました。実際、事件の前日、前々日と、通勤途中に眠気を催し、途中のコンビニエンスストアで休憩をしてから、どうにか職場に辿り着いていたという状態でした。当日も、眠気を催した時にはまたいつものコンビニエンスストアで休めばいいかという程度の気持ちで運転をしていました。眠気を催したのは、コンビニエンスストア手前10分程の信号待ちの時でした。これ位ならなんとかなる、その判断がどれ程に甘い考えだったのか、愚かなことに、このようなことになった時に初めて知るようになりました。

私の事件のことを聞き、家族や友人は、起こすつもりで起こしたわけではないし、事故だったのだから仕方がないと励ましの言葉をくれました。私も、留置場内で故意に犯罪を犯してきた人達と自分は違うのだと考えていました。

しかし、時の流れとともに、自分の罪と向き合い冷静に考えてみると、果たしてそれは正しいのだろうかとも思うようになりました。いかに「事故」とはいえ、私がしたことは「人殺し」に



(イラストは本文とは関係ありません)

他なりません。故意か過失かということは、それは被害者側にとってはどうでもいいことです。また、「過失」と言っても私の場合、眠気があって危険な状態を認識しながらも運転を継続しようと判断したこと、年度末の多忙さや、生まれたばかりの娘を言い訳にして、職場近くへの引越しを先延ばしにしていたことや、あの道を通勤に選んでいたことなど事故の原因を自ら作っていたようなもので、「未必の故意」を問われれば否定できないのではないかとも思っています。これは、決して偶然の事故などではなく、必然の事件だったのです。

これだけの大罪を犯した者が、たかが2年4月の禁錮刑で済まされ、被害者側としてはさぞかし辛い想いをされているかと思います。示談の成立時に「もう事故のことは思い出したくない。」という理由から、一切の謝罪を拒まれました。私のできた謝罪は、事件現場、法廷、刑務所に入ってから4回しか送れなかった手紙だけです。

これから先も償いは続きます。直接謝罪をする以外に何をすればよいか、正直なところ、これ程深く傷ついている相手にできることなどないとは思いますが、それでも考え続け、決して事件を風化させることのないよう生きていくことが加害者としての私の責務であると考えています。

現場には、今でも献花が絶えることがないそうです。多くの人が傷つき、人生を狂わされました。ご遺族の言葉ですが、「あの子が死んだことで、他の多くの人の人生も狂われてしまった。」のです。交通事故は犯罪です。多くの人から尊いものを全て奪ってしまいます。どうか、全ての人をそれを早くから知り、社会から交通事故の無くなる日が来てほしいと思います。これ以上、この世に悲しみを生まないためにも…。

～(一財)東京都交通安全協会編集発行
「贖いの日々(第51集)」から～

賛助会員の紹介

このコーナーでは、(公財)神奈川県交通安全協会の交通安全活動に賛同し、賛助会員としてご協力をお願いしている企業等を順次ご紹介しています。(敬称略)

- 高梨販売(株) ————— 横浜市旭区本宿町
- トヨタカローラ神奈川(株) ————— 横浜市保土ヶ谷区狩場町
- (株)さいか屋川崎店 ————— 川崎市川崎区日進町

●自転車安全整備制度推進会議(関東ブロック)●

「自転車安全整備制度(TSマーク制度)」の普及・促進を図るため、10月6日(木)栃木県宇都宮市において(公財)日本交通管理技術協会主催による「自転車安全整備制度推進会議(関東ブロック)」が開催されました。

この会議は、毎年、ブロック内の都県自転車安全整備管理者(自転車商協同組合理事長)及び都県交通安全協会専務理事等が一同に会し、開催されています。

会議の前に、昨年度TSマークの普及促進に功労があった協会等に対する感謝状の贈呈が行われ、当県協会もTSマーク「交付枚数の部」で受賞しました。

会議では主催者、来賓からそれぞれ挨拶があり、主催者側から「TSマークの普及拡大状況」、「自転車事故の高額賠償事例」等についての説明があり、その後ブロック内各都県各交通安全協会等からTSマークの普及拡大方策についてそれぞれ事例発表の後、質疑応答、今後のTSマークの普及拡大に向けた活発な討議が行われました。



赤色TSマーク貼ってね



TSマーク + 安全運転 で
安心な自転車ライフを

「TSマーク」は自転車安全整備店の自転車安全整備士が点検・整備した安全な普通自転車に貼るシールのことで、傷害保険と賠償責任保険が付帯しています。

「TSマーク付帯保険」は、自転車に付帯していますので、所有者に限らず、その自転車に乗車していた家族や借りた友人、譲り受けた人も対象となります。

赤色TSマーク付帯保険の補償内容

傷 害 補 償	賠償責任補償	被害者見舞金
●死亡 ●重度後遺障害(1～4級) ●入院治療15日以上 of 傷害	●死亡 ●重度後遺障害(1～7級)	●入院加療15日以上 of 傷害
一律100万円 一律10万円	限度額 5,000万円	一律10万円



●●●●●児童の交通安全を願って●●●●●

《青葉交通安全協会》

●平成28年度青葉区交通安全ポスターコンクール

秋の全国交通安全運動期間中の9月27日、青葉区内の小・中学校児童を対象として募集した交通安全ポスターの表彰式が青葉区役所で行われました。

主催者である区交対協会長、青葉警察署長等とともに出席した工藤青葉交通安全協会会長からも交通安全協会長賞を授与しました。

入選した21作品については、たまプラザ駅前や協賛企業であるバスやタクシー会社の車内などに掲示して交通安全を呼びかけることとしています。



●通学路に交通安全電柱幕

青葉区内31小学校の通学路の電柱に「危険飛び出し注意」等2種類の標語入り反射幕を掲示して、運転者と児童に交通安全を呼びかけています。





座間交通安全協会
会長
片野 恒幸 さん
かたの つねゆき



座間生まれの座間育ちで、今年4月に座間交通安全協会会長に就任した片野恒幸さんをご紹介します。

片野会長は、学校を卒業後、会社勤めしたり、趣味の魚釣りを活かして釣り具などを販売する雑貨店を営んだりしましたが、現在は、自宅で全体の仕事をしており、長男が針灸と接骨院を営営しています。田畑も所有して米も作っており、田植えや米の収穫時期は大変忙しく、趣味の釣りもままなりません。が、小型船舶の操縦免許を取得していますので、6月から鮎釣りに、ときどきは海釣りにも合間を縫って出掛けています。

安全協会との関わりは、平成14年に自治会からの推薦で入会し、交通指導員や支部長、副会長を歴任しています。平成15年には自転車安全教育指導員講習を受講し、指導員として認定を受

けています。

座間市は、自転車事故が多く自転車教室などその指導には安全協会としても力を入れています。毎年のように「自転車事故多発地域」に指定されています。社会的にも自転車利用者の交通マナーの低下、欠如が叫ばれ、高額賠償問題などもある中、「自転車講習制度」も施行されたばかりで、「こども自転車大会」への参加を通じて、将来を担う子どもたちの交通安全教育、自転車事故防止対策を推進することとしました。

積極的に対応していただいた座間市などと連携して「第47回交通安全こども自転車神奈川県大会」に出場することとなりましたが、自転車の安全な乗り方や交通ルールとの指導とは異なり競技となると、勝手が全く違い戸惑うばかりでした。そこで自転車大会では、全国大会など

実績もある厚木市の清水小学校の練習状況を見学したり、座間市の交通安全担当、警察署員の指導を受けながら大会出場にこぎ着けた次第です。団体成績は出場決定からあまり練習時間もない中で、17チーム中14位という成績を残すことができました。関係者の皆様方には改めて感謝するとともに、来年はもっとレベルアップを図り、市民の交通安全意識の向上にもつなげていきたい、と語ります。

その他協会としては、警察署の指導を受け、他の団体とも連携して、大風まつりや春の交通安全パレード、秋のふるさとまつりなど各種イベントを通じて交通安全を呼びかけており、今後も市民を交通事故から守る活動を推進していきたいと考えています。

こんにちは 「高津交通安全協会」です

高津交通安全協会は、昭和21年4月に、川崎市の北部(現在の高津・宮前・多摩・麻生区)を活動範囲として設立されました。

その後、川崎市の政令指定都市移行に伴う区の設置や分区により、現在は高津区の区域を活動範囲としております。

高津区は東京都と横浜市に挟まれた川崎市のほぼ中央に位置し、多摩川や二ヶ領用水等の水辺に恵まれた高津地区と、多摩丘陵の緑豊かな橋地区で構成されています。

このような高津区ですが、区の中央に位置する武蔵溝の口駅が、市を縦断する南武線と、市を

横断する田園都市線・大井町線との交通結節点となっていることから、人口が増加しており、自転車の利用が多い地域でもあります。

協会の活動内容ですが、春・夏・秋と年末の交通安全運動等に加えて、大山街道を交通安全パレードする高津区民祭、橋ふるさと祭り、市制記念花火大会、大山街道フェスタなどのイベントが毎年開催されますので、交通安全キャンペーンや交通誘導などで協会役員は忙しい日々を過ごしています。

高津区内の交通事故件数は年々減少しているものの、自転車や二輪車、高齢者の事故が目立っ



います。

今後も会長、役員、交通指導員、事務局が協力し、警察や関係交通団体との連携をより一層密にして交通安全対策を図っていきたいと考えています。

(飯田 記)

地区交通安全協会の活動紹介



緑

歌手2名に一日警察署長を委嘱し、出陣式を実施後、公会堂の区民大会に場所を移し、「交通安全リング」を配布しながら教育隊等とキャンペーンを実施した。



都 筑

警察署前からセンター南駅まで中学生プラスバンドを先頭に、プロレスラーを一日警察署長に委嘱して交通安全パレードを行い、駅前でキャンペーンを実施した。



田 浦

追浜駅前に交通安全関係団体とともに集合し、署長と会長挨拶の後、各方面に分かれてフレットを掲げ、グッズを配布して運転者に交通安全を呼びかけた。



相 模 原 南

相模大野駅前のベデストリアンデッキにおいて、反射材キーホルダーなどを配布しながら他団体と交通安全キャンペーンを行った。



津 久 井

県立高校2校の校門前で通学する生徒に呼びかけたり、郵便局や銀行などの金融機関前において、反射材を配布して交通安全を呼びかけた。

加 賀 町

女性タレントに一日警察署長を委嘱し、元町商店街通りを横断幕を掲げ、白バイや県警音楽隊も参加して秋の全国交通安全運動キャンペーンを実施した。



栄

男性歌手に一日警察署長を委嘱し、栄公会堂に幼稚園児や保護者を招いてゆるキャラなどとともに、交通安全を呼びかけた。



宮 前

鷺沼駅前に「交通安全官前開所」を設け、安協役員が水戸黄門二行に扮してグッズなどを配布しながら通行人に交通安全を訴えた。



藤 沢 北

警察署と連携し、駅前においてのぼり旗を立て、チラシを配布しながら通行車(人)に違法駐車(輪)追放を呼びかけた。



相 模 原 北

JR橋本駅前において、高校吹奏楽部の演奏を交えながら、区、警察等関係団体とともに、交通事故防止の徹底を呼びかけた。



秋の全国交通安全運動Ⅱ

インフォメーション

- 飲酒運転根絶強化月間 _____ 12月中
- 二輪車安全運転講習 _____ 12月10日
- 年末の交通事故防止運動 _____ 12月11日～20日